

福 生 市

子どもの読書活動等に関する調査
・読書ボランティアに関する調査
結果概要版



ぶっくんどリーム・ネットワーク福生

はじめに

だれもが子ども時代に読んだ大切な本の思い出があります。

子ども時代の読書は大人になっても、生きていくうえで大きな糧になるものです。

子どもたちに本の楽しさを伝えていきたい、そんな願いで「ぶっくんどリーム・ネットワーク福生」が誕生いたしました。“福生を読書の街に”を合言葉に、市民、学校、図書館などが協力し、“本は友だち”応援隊養成講座、ふっさ“本は友だち”フェスティバルの開催とともに、子どもの読書実態調査などを行ってまいりました。

このたび、10月に実施いたしました調査の集計がまとまり、報告書として上梓することとなりました。調査にあたりましてはご協力いただきました市民の皆さまをはじめ、小・中学校、保育所、幼稚園などの関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

この調査結果がこれからの福生市の子どもたちの読書活動の推進を考える資料として寄与できることを願っています。

ぶっくんどリーム・ネットワーク福生

* この調査は独立行政法人国立青少年教育振興機構「平成 23 年度地域ぐるみの子どもの読書活動推進事業」の委託事業として実施したものです。

調査の概要...

～調査の目的～

本調査の目的は、学齢前の子ども、小学生、中学生を対象に、読書の好き嫌い、読書量、本の入手先、幼児期の読み聞かせ体験、市立図書館や学校図書館の利用などの読書実態を把握すること、また、放課後の過ごし方、家庭での過ごし方などの生活実態を把握することで、子どもの読書活動を推進するための基礎資料とします。

～調査方法～

学齢前子ども調査（保護者調査）

学齢前の幼稚園、保育所に通う子どもを持つ保護者へ、幼稚園・保育所から渡し、幼稚園・保育所へ提出（持参）による回収としました。

小学校低学年調査

各小学校から、対象とした各学年各1クラスの児童に手渡し、自宅で保護者の回答援助により回答した調査票を、各小学校で回収しました。

小学校高学年調査

各小学校で、対象とした各学年各1クラスの児童に配布し、記入された調査票を回収しました。（配布等の方法は、各小学校に一任しました。）

中学生調査

各中学校で、対象とした各学年各2クラスの生徒に配布し、記入された調査票を回収しました。（配布等の方法は、各中学校に一任しました。）

子どもの読書ボランティア調査

事務局より各団体に手渡しまたは郵送し、FAXまたは持参により回収しました。

～配布・回収数～

学齢前子ども調査では、幼稚園（2園）、保育所（3園）を任意で抽出し各園に通うすべての子どもを対象としました。

小学生を対象とした調査（小学校低学年調査、小学校高学年調査）では、各学校各学年1クラスを対象とし、中学生調査では、各学校各学年2クラスを対象としました。調査票の配布数と最終的な回収数は以下のとおりでした。

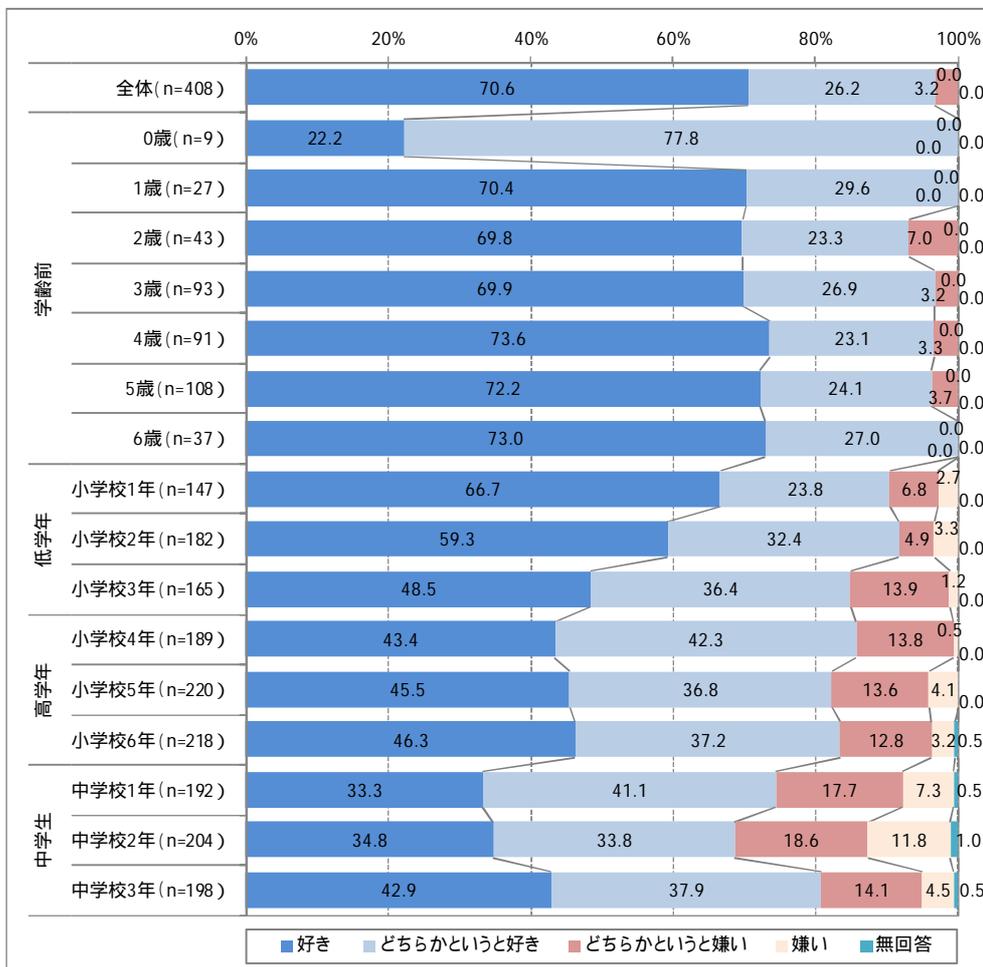
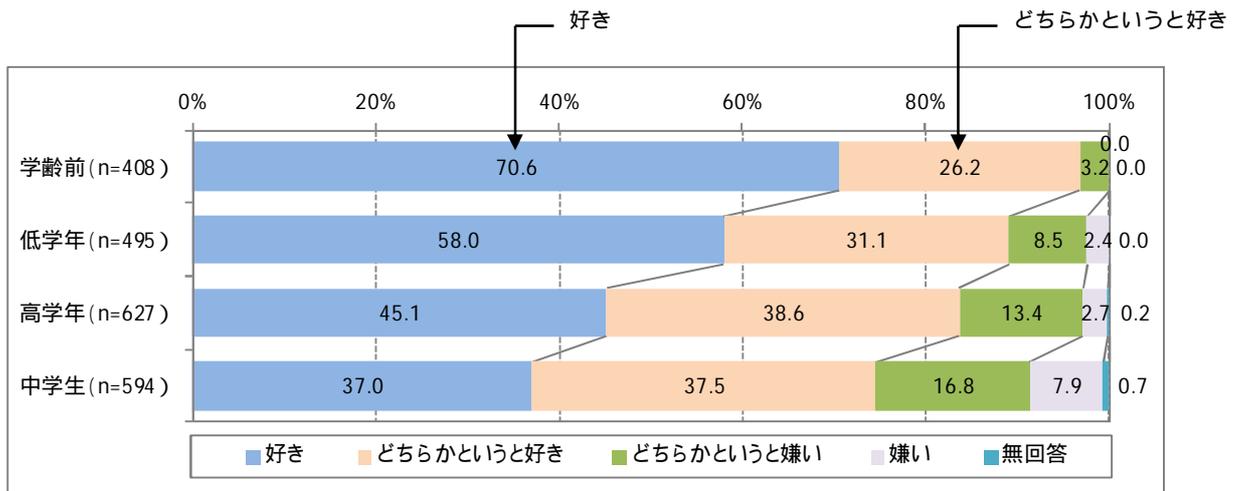
調査名	配布数（A）	回収数（B）	回収率（C） (C=B/A*100)	有効回収数 (D)	有効回収率 (D/A*100)
学齢前子ども調査	616	440	71.4	408	66.2
小学校低学年調査	639	495	77.5	495	77.5
小学校高学年調査	633	627	99.1	627	99.1
中学生調査	601	594	98.8	594	98.8
読書ボランティア調査	36	33	91.7	33	91.7

福生の子どもたちの読書の状況は...

～読書の好き嫌い～

読書が「好き」と「どちらかという好き」を合わせると、〔学齢前〕が96.8%、〔低学年〕が89.1%、〔高学年〕が83.7%、〔中学生〕が74.5%と、多くの子どもが“好き”と回答していますが、成長するにつれ“好き”が減少しています。

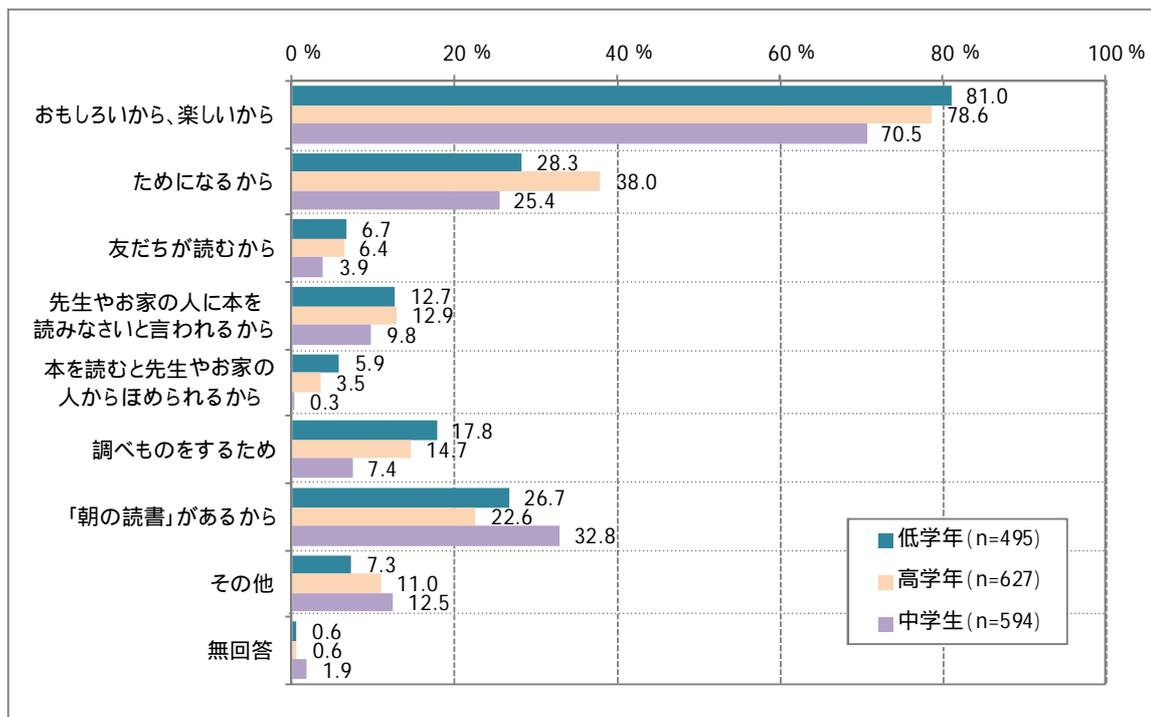
読書が「嫌い」と「どちらかという嫌い」を合わせると、〔学齢前〕が3.2%、〔低学年〕が10.9%、〔高学年〕が16.1%、〔中学生〕が24.7%と増加していますが、〔中学生〕では4人のうち1人が読書を“嫌い”と回答しています。



～読書をする理由～

読書をする理由は、〔学齢前〕〔低学年〕〔高学年〕〔中学生〕ともに「おもしろいから、楽しいから」の回答が最も多くなっています。

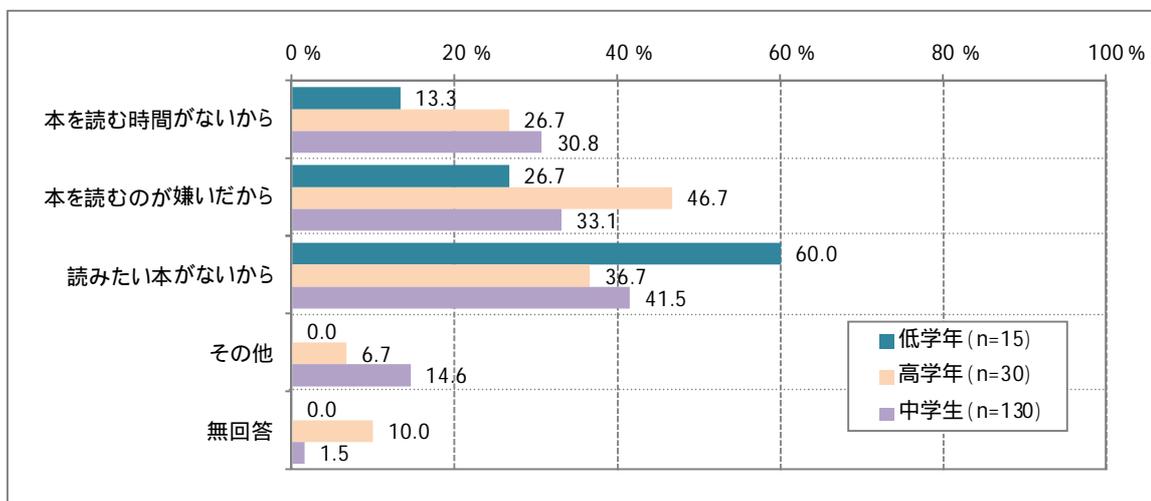
〔中学生〕では「朝の読書」があるから」が「ためになるから」よりも回答割合が高く、受動的な傾向が強くなっています。



～読書をしない理由～

〔低学年〕では全体の 3.0%、〔高学年〕では全体の 15.5%、〔中学生〕では全体の 21.9%が普段一か月間に一冊も読書をしないと回答しています。

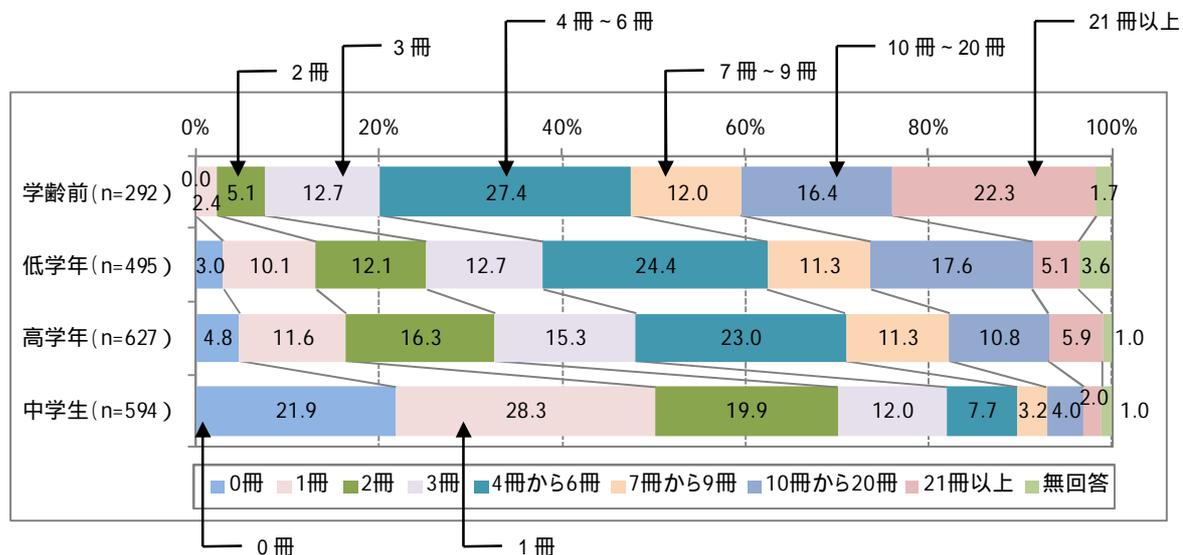
読書をしない理由は、「本を読む時間がない」よりも、「読みたい本がない」あるいは「本を読むのが嫌い」という理由を上げる回答が多くなっています。



～読書の冊数～

〔学齢前〕〔低学年〕〔高学年〕では一か月間に「4冊から6冊」読む子ども・児童が最も多くなっています。

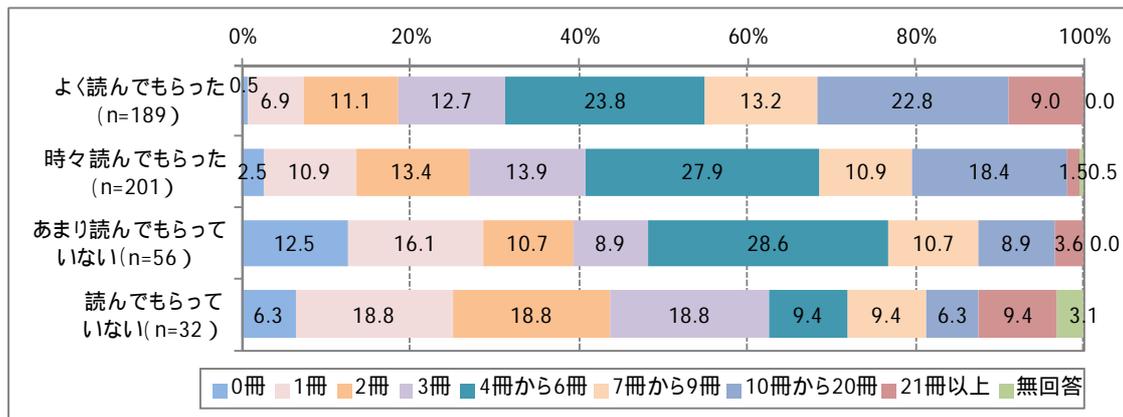
〔中学生〕では、一か月間の読書が2冊未満の生徒が半数を超えています。



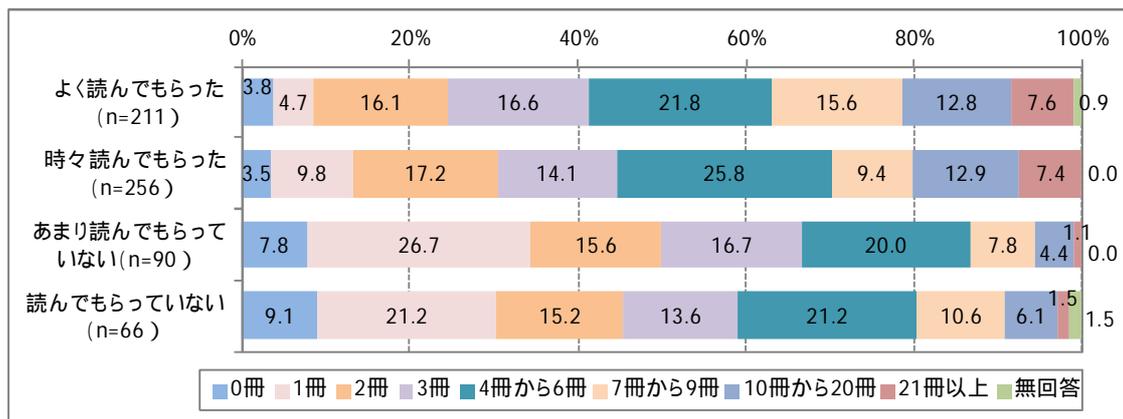
ぼくの名前は「ぶっくん」です。
 1993年、福生市立図書館20周年の記念に、
 絵本作家 いたうひろし さんに描いてもらいました。
 名前は、翌年6月市民のかたがたの応募により決まりました。
 イメージキャラクターとして、これからも登場しますので、
 どうぞよろしく。

「入学前の読み聞かせの頻度」と「読書の冊数」の関係をみると、「よく読んでもらった」児童は、「時々読んでもらった」「あまり読んでもらっていない」「読んでもらっていない」児童・生徒に比べ、読書の冊数が多い傾向となっています。

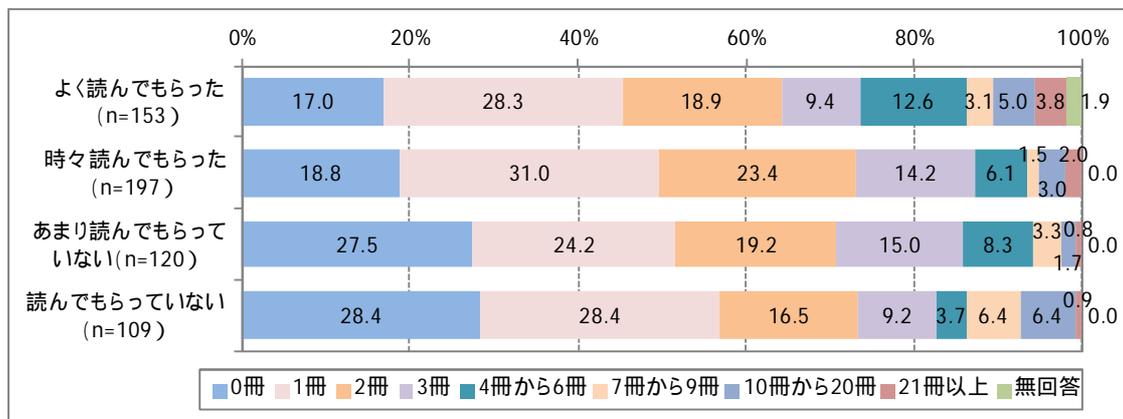
【「入学前の読み聞かせの頻度」と「読書の冊数」の関係】小学校低学年〔SA〕



【「入学前の読み聞かせの頻度」と「読書の冊数」の関係】小学校高学年〔SA〕



【「入学前の読み聞かせの頻度」と「読書の冊数」の関係】中学生〔SA〕

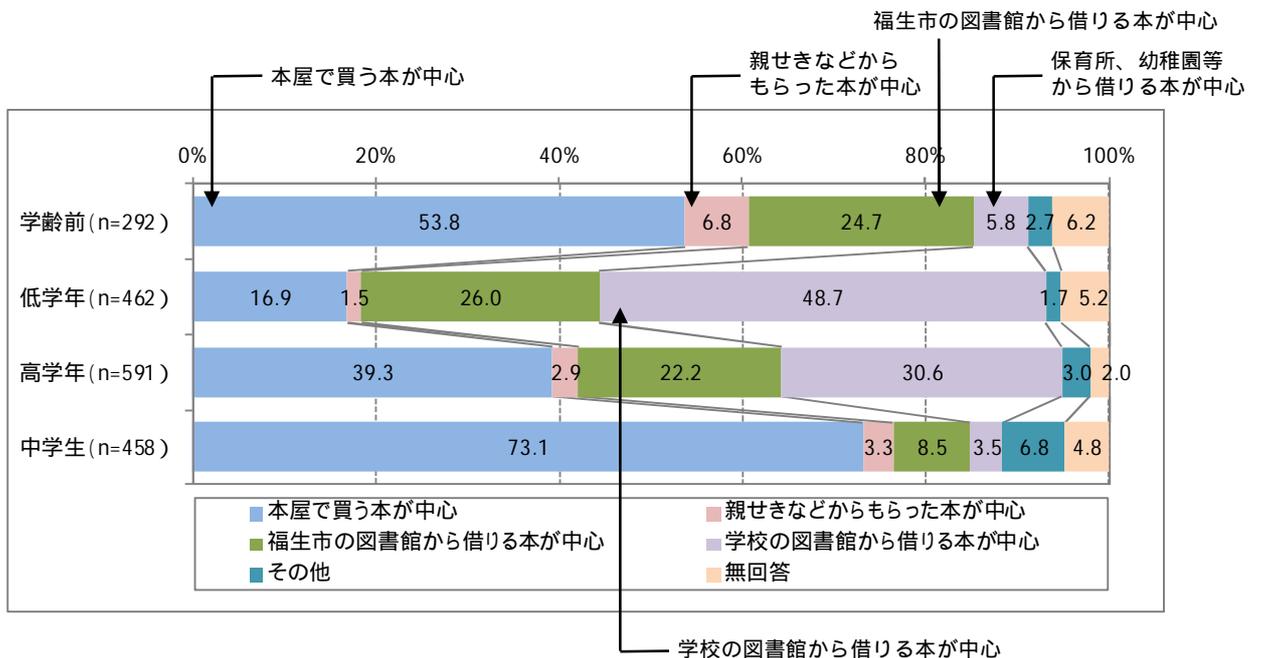


～本の入手先～

〔学齢前〕では「本屋で買う本が中心」が最も多く 53.8%と半数を越えています。
 〔低学年〕から〔高学年〕、〔高学年〕から〔中学生〕と学年が上がるにつれ「本屋で買う本が中心」への回答割合が高くなっていきます。

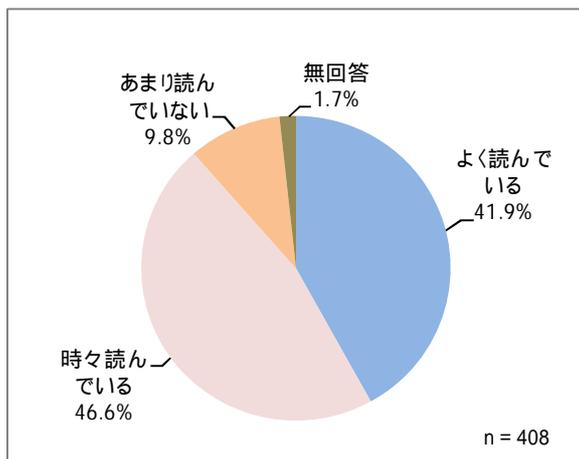
「福生市の図書館から借りる本が中心」と「学校の図書館から借りる本が中心」への回答は、学年が上がるにつれ低くなっていきます。

「読書の冊数」と「本の入手先」の関係は、読む冊数が多くなるにつれ「本屋で買う本が中心」の回答割合が下がり、「福生市の図書館から借りる本が中心」の回答割合が上がる傾向となっています。



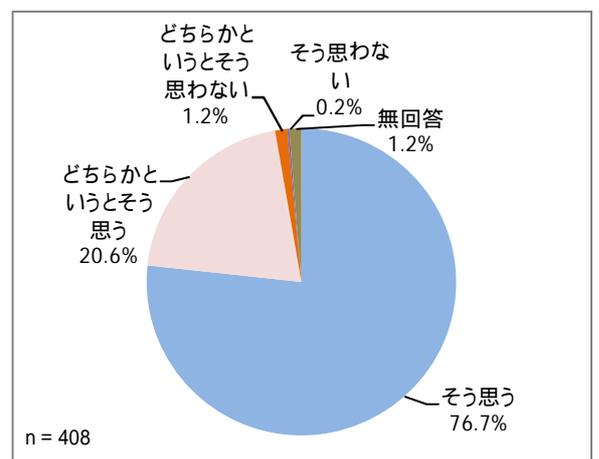
～子ども一人だけの読書～

〔学齢前〕の子どもの9割近くが、一人で絵本や図鑑などを「よく読んでいる」あるいは「時々読んでいる」結果となっています。



～読書の効果～

子どもの保護者のほとんどが、「言葉を学び、表現力や想像力を豊かにし、生きる力を身に付ける上で大切」と認めています。



読み聞かせについて...

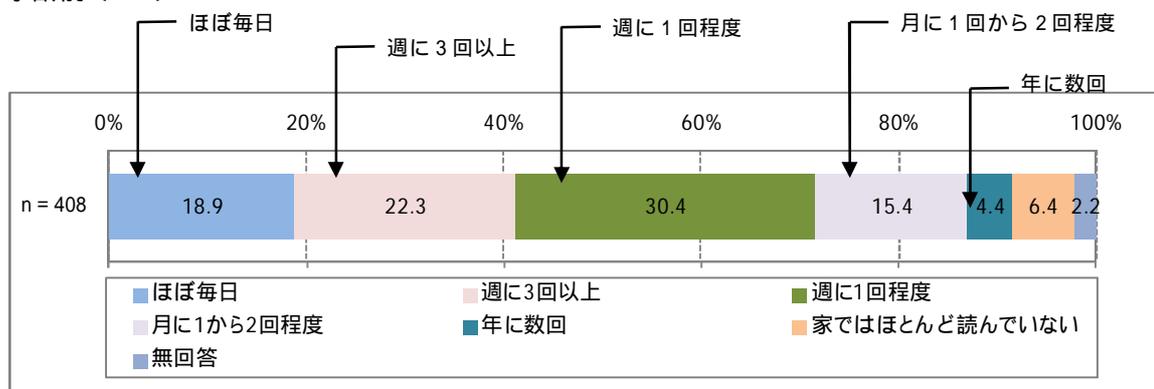
～読み聞かせの頻度～

〔学齢前〕の子どもへは、約7割が最低週1回は読み聞かせを行っています。

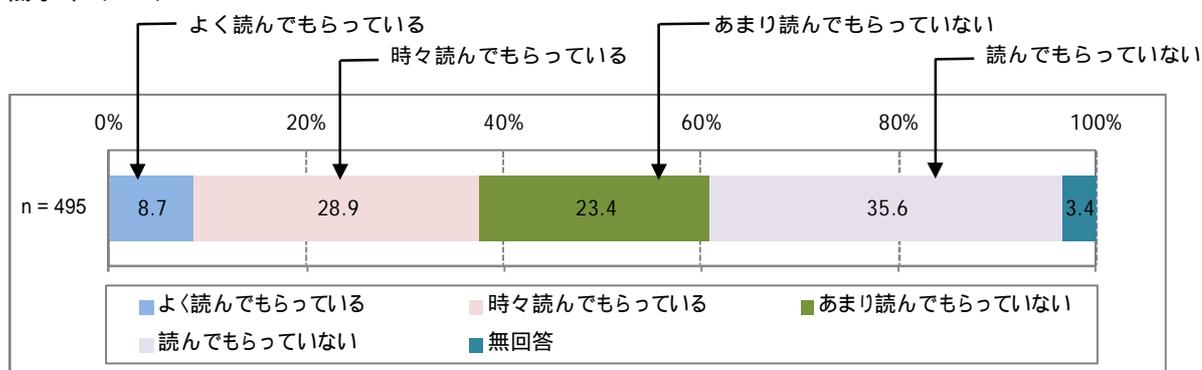
〔低学年〕の児童への読み聞かせは、「よく読んでもらっている」と「時々読んでもらっている」を合わせた“読んでもらっている”は37.6%と4割を下回り、「あまり読んでもらっていない」と「読んでもらっていない」を合わせた“読んでもらっていない”は59.6%と約6割となっています。

小学校入学を境に読み聞かせの頻度が減るものと想定される結果となっています。

学齢前〔SA〕

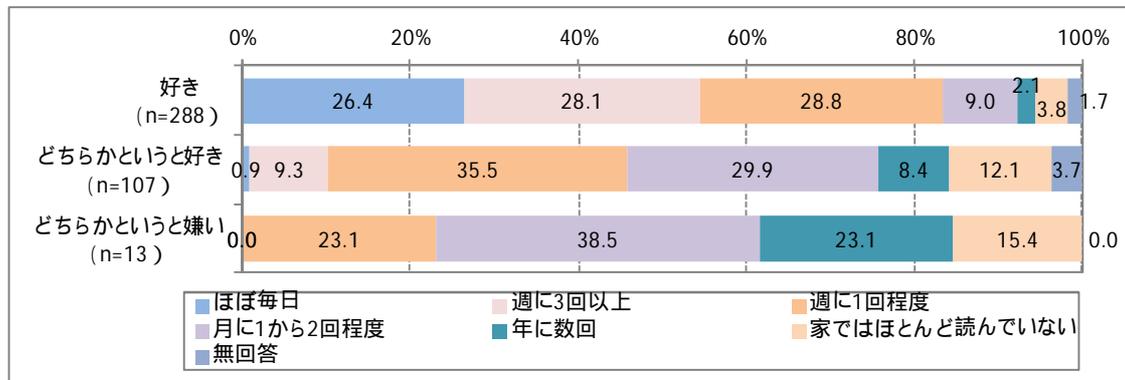


低学年〔SA〕



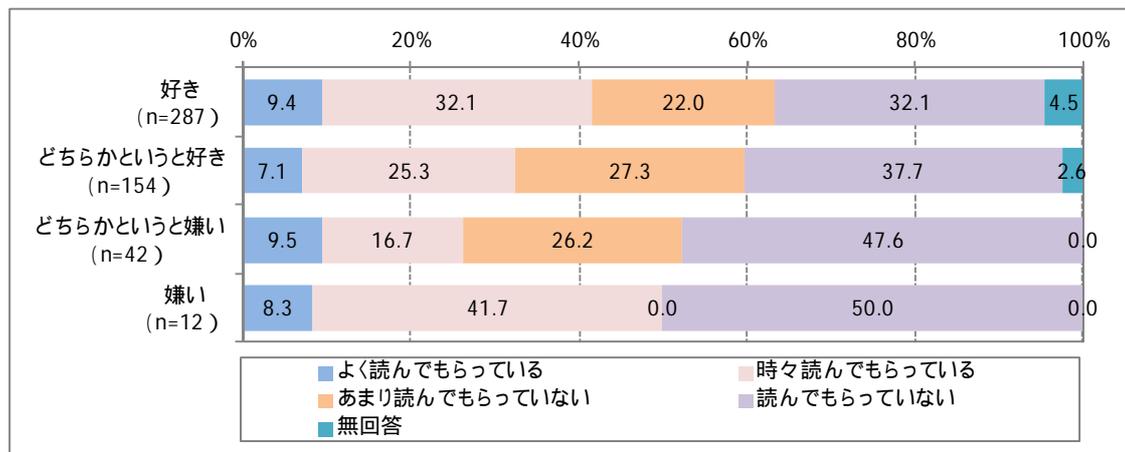
〔学齢前〕における「読書の好き嫌い」と「読み聞かせの頻度」の関係は、読み聞かせの頻度が多くなるにつれ読書が好きな子どもが多いという結果となっています。

学齢前〔SA〕



〔低学年〕では、「よく読んでもらっている」児童は“好き”と“嫌い”に大きな差は出ていませんが、“嫌い”になるにつれ、「あまり読んでもらっていない」と「読んでもらっていない」の割合が高い結果となっています。

小学校低学年〔SA〕



〔学齢前〕と〔低学年〕の子どもや児童は、読み聞かせの頻度が多いほど、読み聞かせや読書が好きな傾向にあるといえます。

放課後の過ごし方について...

～放課後過ごす先～

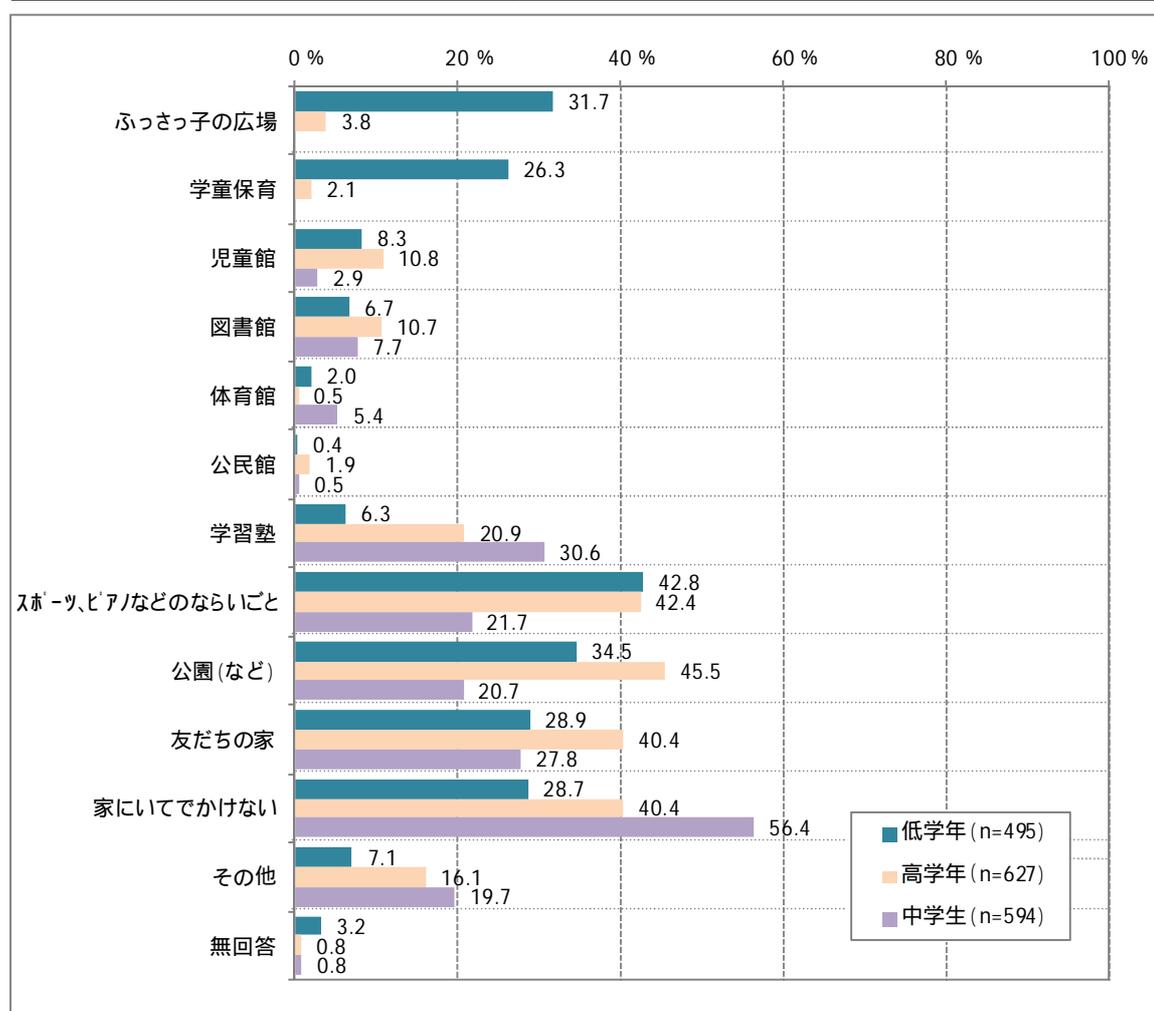
〔低学年〕〔高学年〕〔中学生〕ともに、「スポーツ、ピアノなどのならいごと」「公園（など）」「友だちの家」「学習塾」「家にいてでかけない」への回答割合が高くなっています。

〔中学生〕は外で遊ぶことや友だちの家で過ごすことは相対的に減り、「家にいてでかけない」の割合が最も高く、「学習塾」がそれに続いています。

放課後過ごす先〔上位回答〕

(%)

区分	1位	2位	3位
低学年	スポーツピアノなどのならいごと(42.8)	公園(など)(34.5)	友だちの家(28.9)
高学年	公園(など)(45.5)	スポーツピアノなどのならいごと(42.4)	友だちの家(40.4) 家にいてでかけない(40.4)
中学生	家にいてでかけない(56.4)	学習塾(30.6)	友だちの家(27.8)



放課後「図書館」で過ごす児童・生徒は、〔低学年〕〔高学年〕及び〔中学生〕ともに「宿題などの勉強をする」が最も多くなっています。

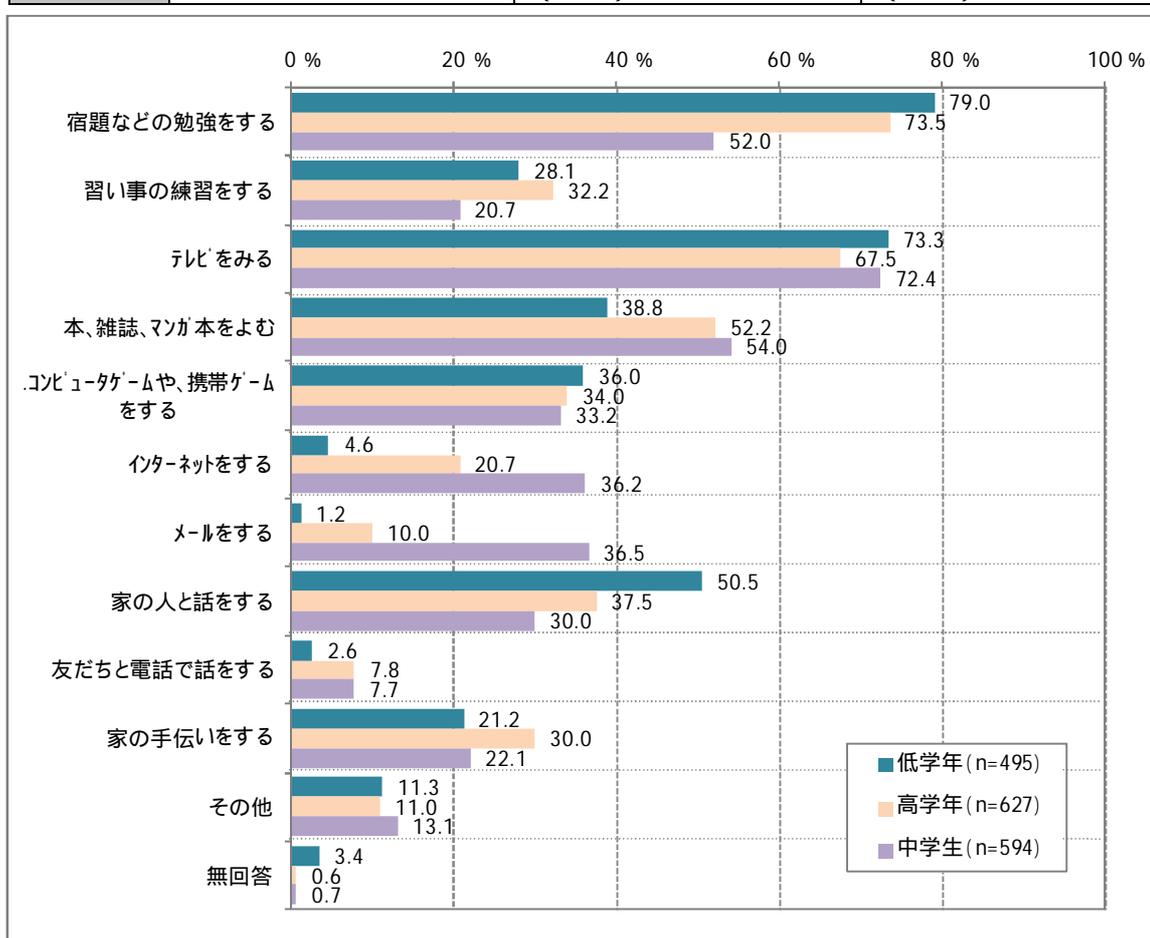
～放課後自宅での過ごし方～

〔低学年〕〔高学年〕ともに「宿題などの勉強をする」への回答割合が最も高く、「テレビをみる」がそれに続いています。

〔中学生〕では、「テレビをみる」の割合が最も高く、次いで「本、雑誌、マンガ本をよむ」、「宿題などの勉強をする」と続いています。

放課後自宅での過ごし方〔上位回答〕 (%)

区分	1 位	2 位	3 位
低学年	宿題などの勉強をする (79.0)	テレビをみる (73.3)	家の人と話をする (50.5)
高学年	宿題などの勉強をする (73.5)	テレビをみる (67.5)	本、雑誌、マンガ本をよむ (52.2)
中学生	テレビをみる (72.4)	本、雑誌、マンガ本をよむ (54.4)	宿題などの勉強をする (52.0)



「放課後自宅での過ごし方」と「読書の冊数」の関係は、〔低学年〕では、「本、雑誌、マンガ本を読む」児童は比較的読書の冊数が多い結果となっているほか、「宿題などの勉強をする」「習い事の練習をする」「家の人と話をする」「家の手伝いをする」等の児童も相対的に読書の冊数が多い結果となっています。

〔高学年〕では、「友だちと電話で話をする」「家の人と話をする」「家の手伝いをする」児童は比較的読書の冊数が多い結果となっています。

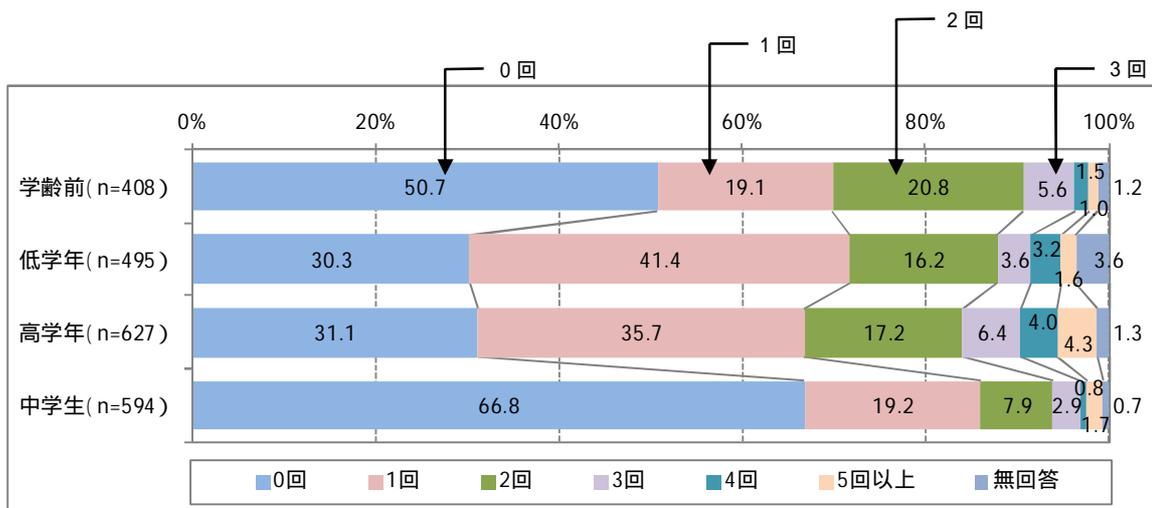
〔中学生〕では、「本、雑誌、マンガ本を読む」「家の手伝いをする」「宿題などの勉強をする」生徒が相対的に読書する冊数が多い結果となっています。

市立図書館の利用について...

～市立図書館への来館頻度～

普段一か月における、福生市立図書館（中央図書館、わかざり図書館、わかたけ図書館、武蔵野台図書館）の利用（来館）状況は、[学齢前]では、「0回」が50.7%、「1回」以上利用する子どもは48.0%です。

[低学年]では、「0回」が30.3%、「1回」以上利用する子どもは66.0%と増加します。[高学年]では、「0回」が31.1%、「1回」以上利用する子どもは67.6%です。6割から7割の小学生が一か月に1回以上図書館を利用しています。一方、[中学生]になると「0回」が66.8%と増加しています。

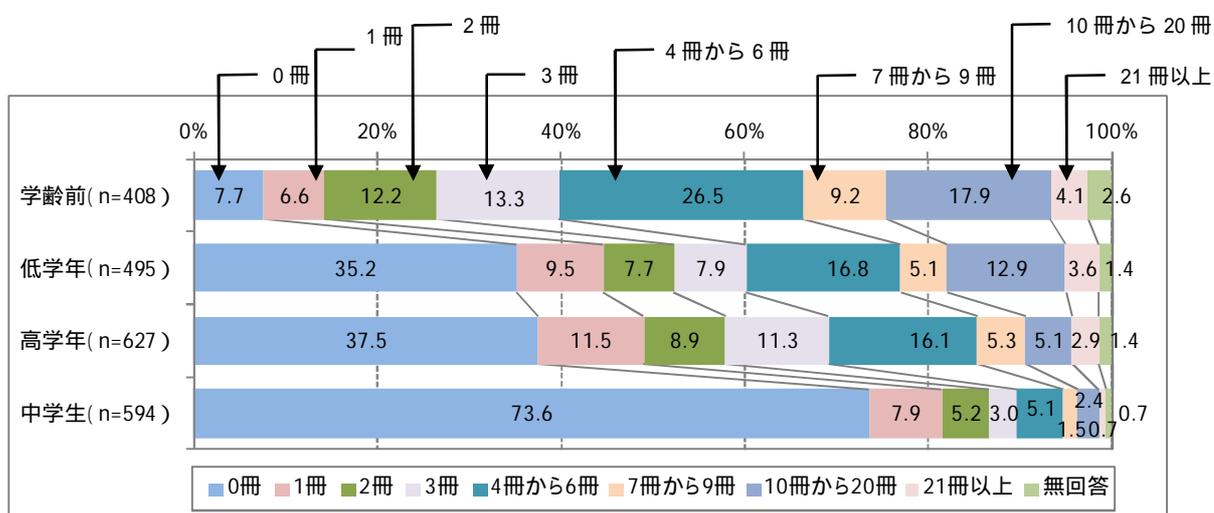


～市立図書館で借りる冊数～

〔学齢前〕では「4冊から6冊」が26.5%と最も高く、次いで「10冊から20冊」が17.9%と続いています。

〔低学年〕と〔高学年〕では、「0冊」がそれぞれ35.2%、37.5%とほぼ同じ回答割合となっています。また、〔低学年〕は〔高学年〕に比べ「10冊から20冊」の回答割合が高くなっています。

〔中学生〕では「0冊」が7割を越えており、小学生に比べ中学生は市立図書館からの借入冊数が少ない結果となっています。

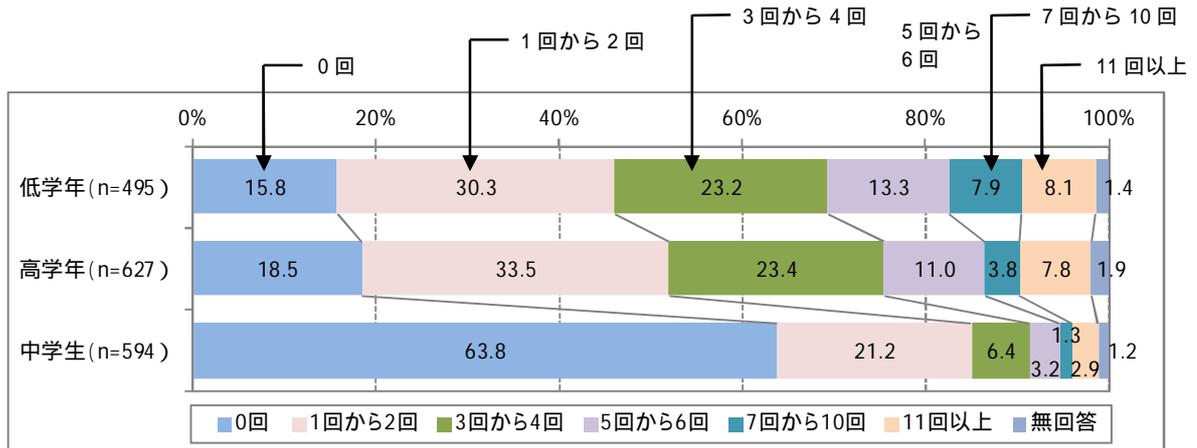


学校図書館の利用について ...

～ 学校図書館の利用状況 ～

普段一か月間における、学校の図書館の利用状況（回数）は、〔低学年〕と〔高学年〕を比較すると、僅かながら〔高学年〕の利用回数が減少しています。

〔中学生〕は「0回」が6割を越えているほか、「1回から2回」が21.2%、「3回から4回」が6.4%、「5回から6回」が3.2%と、小学生に比べ中学生の利用が非常に少なくなっています。

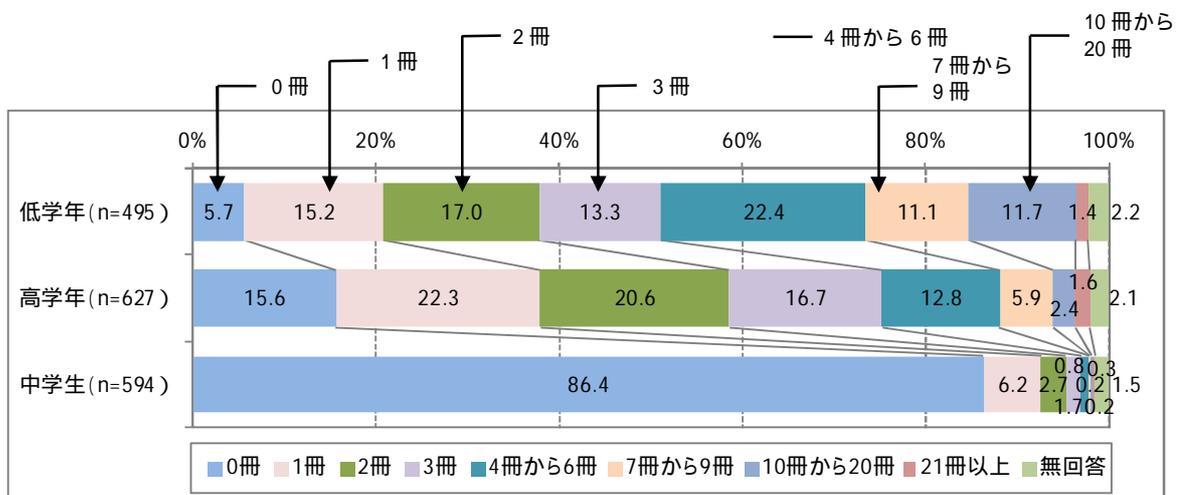


～ 学校図書館で借りる冊数 ～

普段一か月間における、学校の図書館から借り出す本の冊数を〔低学年〕及び〔高学年〕で比較すると、学年が上がるにつれて「0冊」の回答割合が高くなっています。

〔低学年〕と〔高学年〕は、「1冊から3冊」までの比較的少ない冊数の借り出す割合は高くなっていますが、「4冊」以上では借り出す冊数の割合は低くなっています。

〔中学生〕では「0冊」が86.4%に上り、利用者が非常に限られています。

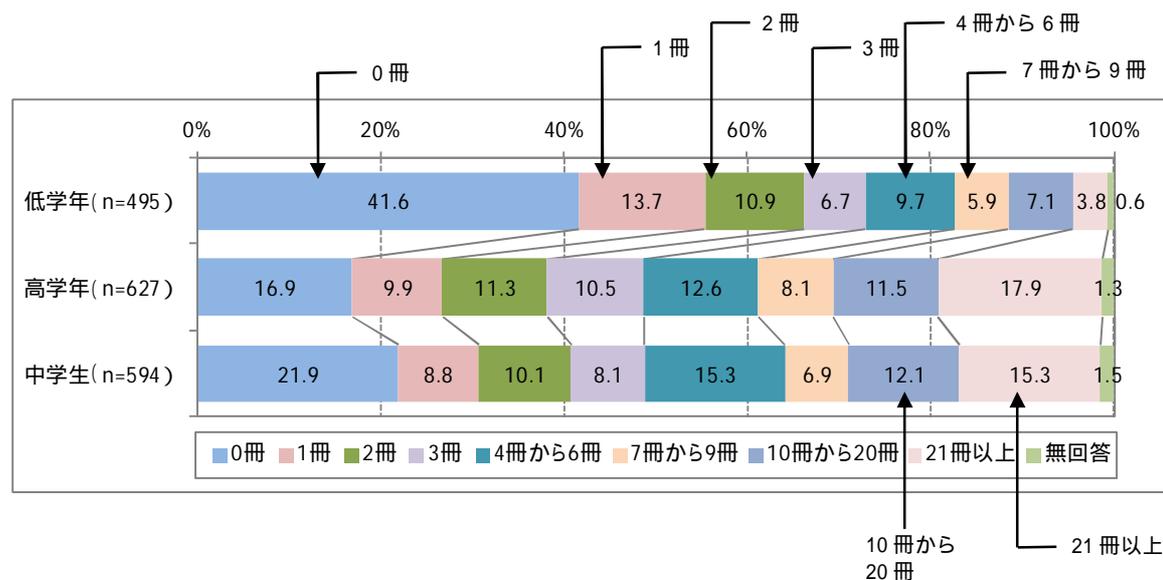


マンガ(コミック)について...

～マンガ(コミック)の読書冊数～

普段一か月間における、マンガ(コミック)の読書冊数は、〔低学年〕に比べ〔高学年〕及び〔中学生〕はより多く読んでいることがうかがえ、〔高学年〕が〔中学生〕よりも相対的に多く読んでいることがうかがえます。

〔低学年〕では「0冊」が41.6%ですが、〔高学年〕では16.9%、〔中学生〕では21.9%となっています。



「マンガ(コミック)の読書冊数」と「読書の冊数」の関係は、〔低学年〕では「マンガ(コミック)の読書冊数」が多いほど「読書の冊数」が多い傾向にあり、〔高学年〕ではその傾向がより鮮明となっています。

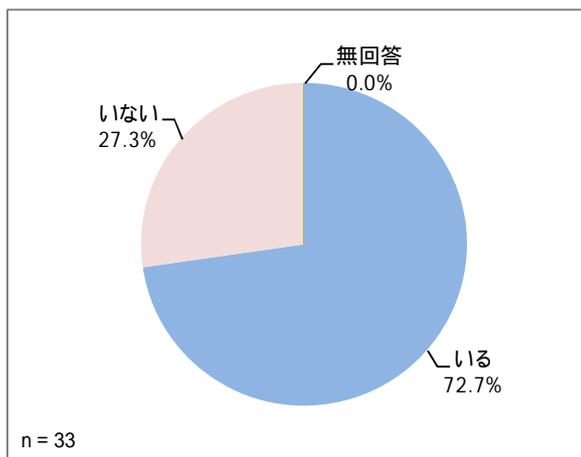
〔中学生〕では、「マンガ(コミック)の読書冊数」が9冊までは、「マンガ(コミック)の読書冊数」が増えるほど「読書の冊数」が増える傾向にありますが、「マンガ(コミック)の読書冊数」が10冊以上では「読書の冊数」が減少に転じています。

子どもの読書ボランティア調査...

～市民のボランティアの受け入れ状況～

市民ボランティアを受け入れている団体は72.7%（24団体）、受け入っていない団体は27.3%（9団体）でした。

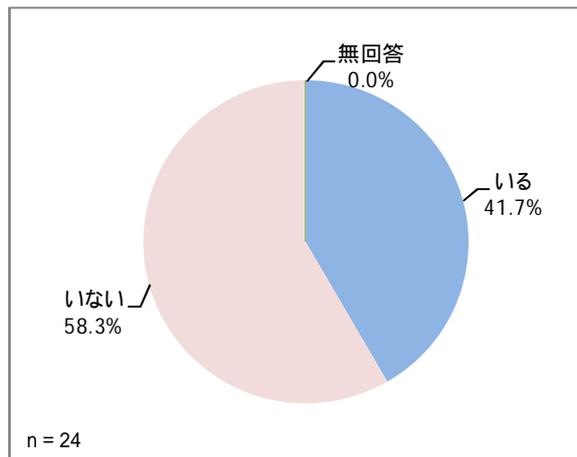
受け入れ状況〔SA〕



～子どもの読書ボランティアの有無～

市民ボランティアを受け入れている団体の中で「子どもの読書のボランティア」がいる団体は41.7%（10団体）、いない団体は58.3%（14団体）でした。

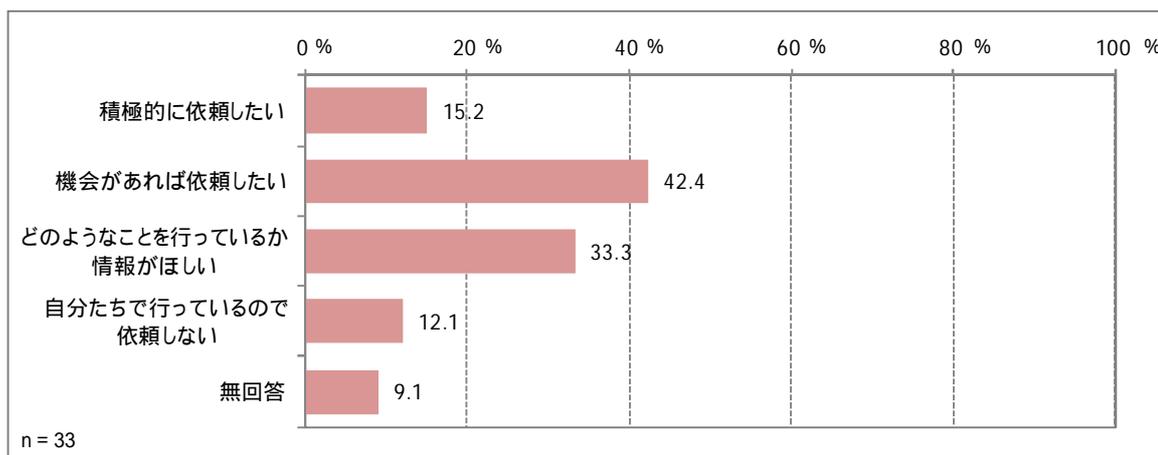
読書ボランティアの有無〔SA〕



～読書ボランティアグループへの要望～

市内で活動する読書ボランティアグループへの要望としては、「機会があれば依頼したい」が42.4%と最も多くなっていますが、「どのようなことを行っているか情報がほしい」が33.3%となっており、情報提供を求める割合も多くなっています。

読書ボランティアグループへの要望〔MA〕



〒197-0003

東京都福生市熊川850-1

ぶっくンドリーム・ネットワーク福生

（事務局：福生市立中央図書館）